

津ライスニュース 平成28年産第1報 (通算第102号)

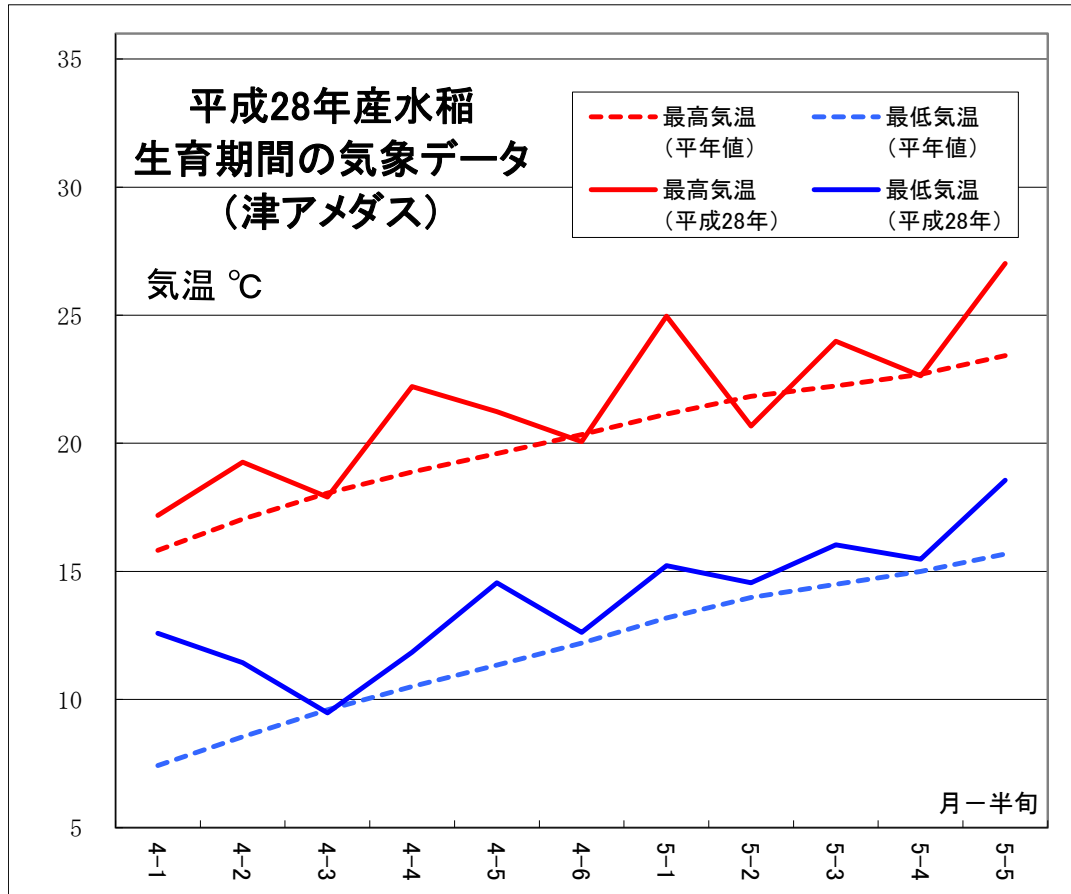
平成28年5月27日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

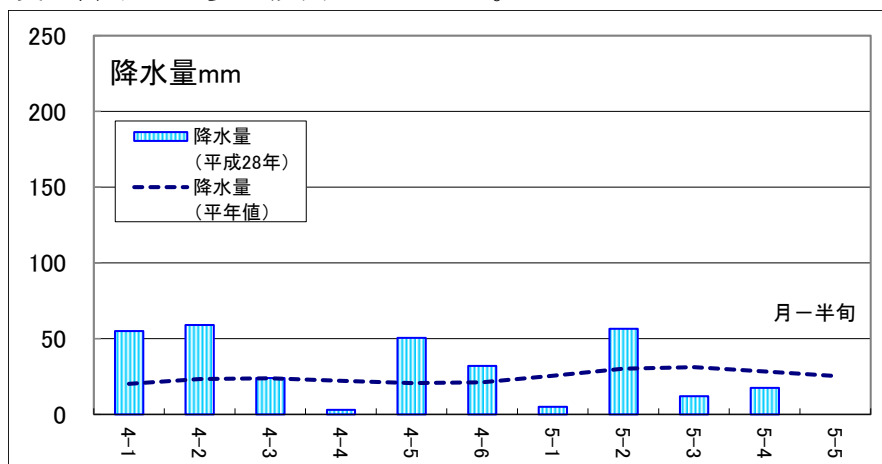
<気温>

4月～5月の気温は、平年と比べてやや高めで推移しています。



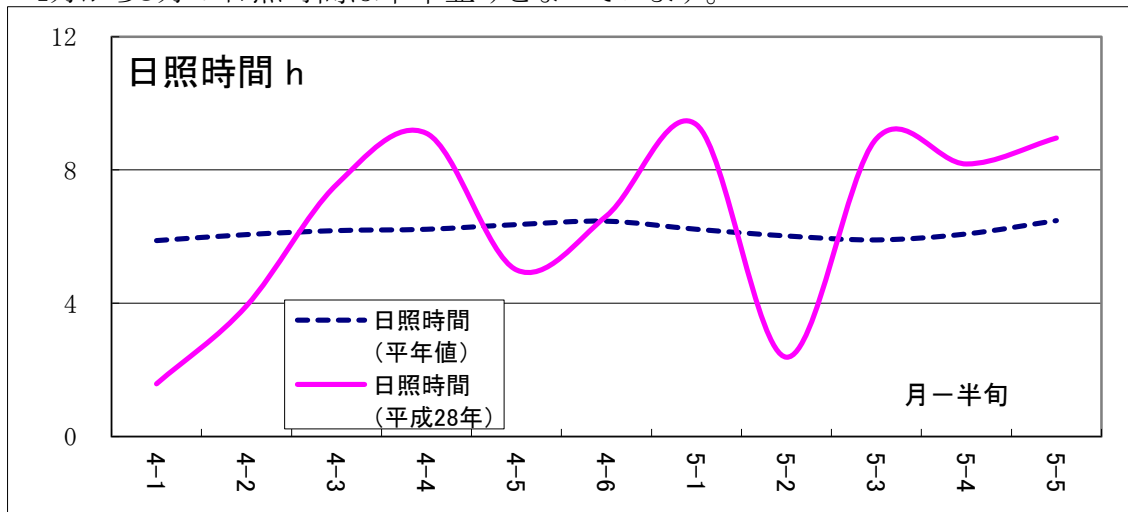
<降水量>

4月から5月中旬にかけて雨の日が多く、降水量も平年より多くなりました。また、1度の降水量が多い傾向がありました。



<日照時間>

4月から5月の日照時間は平年並みとなっています。



生育の概況

本年の育苗期間は、4月以降ほぼ平年並み以上の気温で経過し、極端な高・低温もなかったことから、育苗は順調でカビ、病害等の被害もほとんどなく、良苗が確保されたと思われます。

3月に入ってからからの定期的な降雨により、用水は確保されていて、代かき作業等は順調でした。

津管内の田植え作業は、早いところで4月中旬頃から始まりました。連休中に強風の日があり、連休直前頃に植えつけられたほ場では、強風による植え痛みが散見されました。

本田での生育状況は、強風による植え痛みが一部で発生しましたが、その後気温の上昇に従って回復は早く、初期生育は概ね順調で葉色も出始め、分げつも発生し始めています。

津管内の生育基準田でも生育は順調で、前年と同程度で葉齢の進展はやや早く、草丈・茎数もやや多い状況となっています。

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病発生の適温(25~28℃)となる時期を迎えています。現時点では本田での発生はありませんが、今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。

- ・補植用の苗は早めにほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもちの初発の早期発見と適期防除に努めましょう。
- ・粒剤による予防は早めに散布しましょう。

<害虫(イネミズゾウムシ、イネゾウムシ、イネクロカメムシ)>

本年は、イネミズゾウムシの発生がやや遅く、発生量も少ない状況です。イネクロカメムシも発生は少ない予報ですが、常発地で発生が目立つ場合は、6月下旬を目途に薬剤防除します。

今後の栽培管理

<中干し>

本年は、エルニーニョが終息し、ラニーニャ現象か？との予報もされています。ラニーニャとなると夏期は太平洋高気圧に覆われ、高温が続くことが予測されます。稲も生育が旺盛になり、茎数が増加し、籾数も増え過ぎて、籾の充実不足から白未熟粒の多発⇒二等米増加、といった状況も考えられます。

適切な株あたりの籾数確保のためには、分けつをとり過ぎない、株を出来させ過ぎないことが重要となります。適切な中干しの励行によって稲の生育最適に保ちましょう。

中干し開始は、移植後40日頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m²、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは、用水を入れ替えるようなつもりで行います。暑くなってくる時期を迎え、同じ水を常時張りっぱなしにするのは、根痛みの原因になります。

本年は、6月に入ったら、順次、中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。

作業目安としては、用水を落とします。田面が乾いて、小さな亀裂が入る程度に干します。これを繰り返します。

溝切り機で、ほ場に何本か排水溝を作ると効果的に中干しができ、干した後の給水もスムーズにできます。

***茎数が多い場合** →中干しを早目に、やや強く行ってください。

ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。

***茎数が少ない場合** →中干しを遅目に、弱く行ってください。

<除草>

本年の生育は全体としては順調と思われませんが、強風による植え痛みで除草剤散布を遅らせたほ場や、適期防除を逃したほ場、後発のヒエや広葉雑草の発生がある場合には、早めに後期剤を散布しましょう。(ただし、使用時期＝特に収穫前日数に注意してください)

ツインスタージャンボ・・・ノビエ3葉期まで

クリンチャーバス ME 液剤・・・ホタルイ、ノビエ等

クリンチャー1キロ・・・ノビエ5葉期まで、クリンチャーEW・・・ノビエ6葉期まで

(クリンチャーはキシウスズメノビエにも効果あり)

バサグラン粒・液・・・抵抗性ホタルイ等

ハイカット1キロ粒・・・ノビエ3.5葉期まで、ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラ等